

2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 12 日作成)

小委員会名	サスティナブル情報デザイン小委員会	主 査 名：石川敦雄 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	情報システム技術委員会	委員長名：倉田成人
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2019 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>現在、ビッグデータ社会の到来などを背景として、形や構造だけでなく『情報の流れ』も含めてデザインし、それを持続可能な活動（事業）に結び付けていくことが、強く期待されている。その一方で、この分野に対する建築領域からの発信は十分ではないのが現状である。本委員会は、情報システム技術を含む諸技術および情報そのものを用いて、サスティナブルな建築システム、およびそのためのデザイン手法の探求を目的として設置するものである。</p> <p>初年度：「情報の流れ」を活用することでサスティナブルに持続する建築システムの概念のひとつとして、「生命に学ぶ建築」を社会に提示する書物の出版および、その概念・事例の発表。FM分野における情報利活用の事例調査。</p> <p>2 年度：サスティナブルに持続する建築システム、ファシリティマネジメント等に関する知見の整理と発信。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	主査：石川敦雄（竹中工務店） 幹事：渡邊朗子（東洋大学） 委員：仲 隆介（京都工芸繊維大学）、清水友理（大成建設）、鯨井康志（オカムラ）、菅野文恵（ゼロイン）、横山広大（東急建設）、岸本充弘（InflectionNet）、廣瀬 啓一（清水建設）、朝山秀一（東京電機大学）、山本尚明（パナソニック）、掛井秀一（徳島大学）、本江正茂（東北大学）	
設置 WG (WG 名：目的)	FMデザインWG： 情報の授受を主たる機能とする施設を対象とし、ICTを手段として活用しつつ、適切な情報の流れを作り出すことを目的として実践されているファシリティのデザインおよびマネジメントについて、事例の調査に基づいて、上位小委員会のコンセプトワークを具体化する知見を収集、整理することを目的とする。	
2018 年度予算	220,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回（年度内計画を含む）
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	1. 『生命に学ぶ建築 — 動的平衡・相互作用・成長・再生』（建築資料研究社）
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会承認企画	1. 第17回ファシリティマネジメント・シンポジウム「五感を測るワークプレイス」 『同名資料』 参加者数 56名
大会研究集会	1. PD：生命に学ぶ — 持続可能なまちづくりに向けて 参加者数 60名 『情報システム技術部門パネルディスカッション資料：同上』
対外的意見表明・パブリックコメント等	

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 書籍『生命に学ぶ建築』を出版し、小委員会で調査・研究を重ねた成果を、広く社会に発信することができた。 2. 2018年度建築学会大会でパネルディスカッションを開催し、小委員会で調査・研究を重ねた成果を、学会員と共有することができた。 3. ファシリティマネジメント分野における事例を調査し、その成果をシンポジウムで広く発信・共有することができた。 上記の活動成果から当初の目標は十分に達成できたものと判断する。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 小委員会メンバーの固定化 2. 急速に変化する「建築、情報、デザインの相互関係」に関する検討が十分に進められていない</p>
<p>その他</p>	<p>特になし</p>